

光る風



兵庫県立ひょうごこころの医療センター

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾3

TEL (078) 581-1013 (代表)

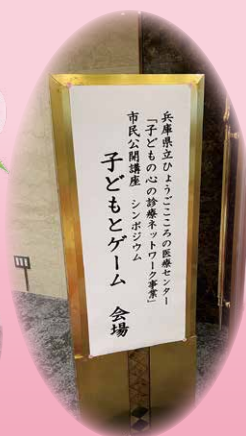
(078) 940-5510 (地域医療連携部直通)

FAX (078) 581-1005

URL <https://hmhc.jp/>



- ✦ 巻頭言
- ✦ 災害派遣精神医療チーム「ひょうごDPAT」の派遣
- ✦ 精神科救急医療センターのご紹介
- ✦ 西1病棟（精神科救急医療センター）のご紹介
- ✦ シンポジウムを開催しました
- ✦ 外来診療のご案内
- ✦ 交通のご案内



巻頭言

副院長 精神科救急医療センター長 青山 慎介



2024年の幕開けは、誰もが想像もしていなかった災害と事故でした。それらは、私たちにあらためて、穏やかな日常がこの先もずっと約束されたものではないことを知らせることになりました。いつもと違う感覚で今年の1月17日を迎えた方もたくさんいらっしゃったでしょう。

災害や死別など、その人にとってつらく重大な出来事や事件の後に、時間とともに記憶そのものは少しずつ薄れても、1年後、数年後、その日が近づくとその時の感情がよみがえり、心身に不調をきたすことを記念日現象（記念日反応、アニバーサリー反応）と言います。これは一概に病的と言えるものではありません。私自身も阪神淡路大震災後、毎年5時過ぎになると目が覚めて今日がその日だったことに気づくのが恒例でした。能登半島地震の被害に遭われた地域の方々にとって、これからの元旦は、これまでと違った意味合いや色彩をもつものになるのだろうと想像します。

今では当たり前に使われるようになった「こころのケア」という言葉は、まさに阪神淡路大震災をきっかけに使われるようになったものです。こころの傷つきが、その後の人生に少なからず影響を及ぼし、場合によっては治療を必要とするような事態を生じることは、古くから精神医学でも知られてはいました。しかし具体的に、どのような場合にどのようなケアを行うべきか、問題意識も社会的な仕組みも乏しかったのです。

阪神淡路大震災の時、全国から様々な形で支援者が来てくれましたが、多くのボランティアと同様に、組織化されたものではなく、自発的なものや個人的なつながりの中で行われることが多く、しばしば混乱を生じ、必要なところに必要な手が届きにくいという課題が残りました。

阪神淡路大震災後の教訓から、大きな災害が起きた後の医療支援について、少しずつ組織化されるようになったのです。2011年3月11日に東日本大震災の際には、組織化が進み、こころのケアを目的とする支援チームが全国から被災地に集まりました。さらに、この時の課題を受けて2013年に厚生労働省によって災害急性期からの精神科医療ニーズに組織的に対応するために災害派遣精神医療チーム（DPAT）が設立されました。2016年4月の熊本地震では初めてその活動が行われました。

私は、1月8日から14日までの一週間、兵庫県からの要請で、DPATの活動のために石川県に行ってきました。

当センターに勤務する私（医師）と看護師、業務調整員の3名からなるチームです。私たちが被災地に入ったときには、すでに身体的な医療支援を行うDMAT（災害派遣医療チーム）も入っていましたが、精神科医療やメンタルケアについてどのようなニーズがどこにどの程度あるのか、具体的には把握できていない状況でした。

被災地の様子は、その見た目だけで言えば報道されていたテレビ画面で流れている通りなのですが、人気のない家屋や街の気配、静けさの中に響くヘリコプターの音、なんとも言えず重く騒然とした空気感、温度、湿度、それらは画面でも文字でも伝えうるものではありませんでした。

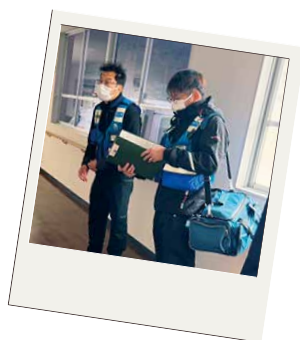
市役所の方や地元の医療機関の方々と協力しながら、避難所や施設での情報収集に回りました。避難所には、帰省中の子供さんを亡くされたご夫婦、両親を都会に引き取るという子供さんの申し出や、2次避難所への移動を拒む方、服薬が不規則になってせん妄を起こした方、薬が足りなくなると不安を訴える統合失調症を持つ男性、集団生活に適応しようとせずトラブルを起こした男性、それぞれの事情があり、多くのニーズがありました。私たちの役目は1週間という期間でしたが、被災地のこころのケアは、形を変えながらも継続的に行う必要があります。

先に述べた記念日現象は、必ずしもネガティブな意味合いだけをもつものではありません。その日その時を忘れず、亡くなった人を弔い、失ったものを悼むことは、自身が被ったこころの傷を癒すための大切な作業です。そして、自身が今も生きてここにいることに、少しでもポジティブな意味を見出すための大切な作業でもあります。精神医学ではこれ「喪の作業」と言います。喪の作業のための仕掛けは、私たちの周りにたくさんあります。通夜や告別式、三回忌や七回忌などの法事、ルミナリエだってそうです。

私たちは誰もがそれぞれに、様々なこころの傷を受け様々な喪の作業を繰り返し、日常の中で笑ったり泣いたり怒ったりしながら、なんとかかんとか今ここにいます。その日常に喜びを感じながら、今より少しでも良い精神医療がひょうごこころの医療センターで提供できますようにと祈念し巻頭言とします。

令和6年能登半島地震における精神科医療及び精神保健活動支援業務について、厚生労働省が運営するDPAT事務局から兵庫県にDPAT先遣隊の派遣要請があり、先遣隊隊員である当センター職員3名を災害派遣しました。

- 1 活動期間 令和6年1月9日（火）から1月13日（土）までの5日間
- 2 派遣職員 医師、看護師、業務調整職員各1名
- 3 活動地域 輪島市内・輪島市門前地区



能登半島地震により被災された皆様、
ならびに、そのご家族の皆様にご心より
お見舞い申し上げます。皆様の安全と
被災地の1日も早い復興そして被災された
皆様の生活が1日も早く平穏に復すること
をお祈り申し上げます。

精神科 救急医療センター のご紹介

当センターの精神科救急医療センターは2007年に開設されました。コロナ禍においては、新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定され、精神疾患に合併した患者さんを受け入れていました。

2023年11月以降は、西1病棟・西2病棟を一体的に精神科救急医療センターとして運用するコロナ前のスタイルに戻りました。精神科救急医療が対象とするのは、何らかの精神疾患によって言動がまとまらず、ひどく興奮したり、逆に反応や気持ちの変化に乏しくなったりと、結果的に身の安全を守ることができなくなっている方です。



断らない救急を

当センターの特徴で目標ともいうべき理念は、まず24時間365日「断らない」救急であることです。治療のタイミングを逸してしまうことで症状がこじれてしまい、長引いたり、思わしい治療効果が得られなかったりと、結果的に患者さんにとって不利益を生じることになります。

当センターの「断らない」ことの意味は、必要な時に、必要な治療を、適切に速やかに行うことにあります。そしてもう一つの意味として、実際に患者さんにお会いして診察や検査を行なってもらえなければ、緊急性や重症度、入院の必要性の有無、行うべき治療とその方向性を見立てることができないことにあります。救急で受診される方の全てが入院されるわけではなく、場合によっては診察の結果、処方薬の調整を行ったり、簡単な処置で症状が落ち着いて帰宅されたりすることもあります。また精神疾患が疑われて受診されても、体や脳の病気が原因であると判断されることもあります。もちろん、緊急性も重症度も高い場合には、入院して治療開始させていただきます。

一方で、当センターは精神科単独の医療機関であるため、入院治療を必要とするような重い身体疾患をお持ちの方の対応には限界があります。このような場合には、総合病院で精神科病床を有する医療機関に身体疾患の治療を依頼して、ある程度の安定が得られてから改めて当センターを受診したり、転院していただいたりすることがあります。

西1病棟 (精神科救急医療センター) のご紹介

西1病棟は、西病棟1階と2階を精神科救急医療センターとして運用しています。病棟内には救急外来もあり、兵庫県精神救急システムの基幹病院として措置入院や医療保護入院、応急入院となるような多様なケースを受け入れています。精神科救急情報センターを経由する方、当センター通院中で症状が増悪された方の対応を、365日24時間行っております。

精神科救急患者を受け入れるとともに、行動制限を最小化し適切なケアを提供するため、毎朝多職種で救急病棟ミーティングを行い、情報共有することで、入院時からチームで行動制限最小化や退院支援を進めています。



入院後1週間以内にカンファレンス実施！

入院された全ての患者さんについて、入院後すぐに、医師・看護師だけでなく精神保健福祉士や、場合によっては薬剤師や心理士、作業療法士も参加する初期カンファレンスを行っています。

ここでは、初期治療の方向性をスタッフ間で共有するとともに、その患者さんの置かれた状況や病気の側面から家族や生活環境、あるいは性格や対人関係の特性からとさまざまな角度から検討されます。

精神疾患は、身体疾患に比べて、その人を取り巻く環境や心理的な要素がその回復に、また回復後の生活の質に大きく関係してくることが多いからです。カンファレンスを通じて入院初期から最適な治療やサポートのあり方を多職種チームで考えることを大切に考えています。



患者さんやご家族が、安心して「その人らしく」過ごせるような支援を実践していきたいと思っています！



急性期治療

当センターでは、重症例や難治例に対して以下の治療にも積極的に取り組んでおります。

1. 治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンを用いた薬物療法
2. 重症うつ病や緊張病（カトニア）等に対する修正型電気けいれん療法（mECT）

いずれも行うことができるのは、指定を受ける等の条件の揃った施設のみ可能となっております。

当センターは、同じ県立病院の内科や麻酔科と連携し、これらの治療が安全に継続できる体制にあります。



シンポジウムを開催しました

令和6年2月4日（日）14時から、神戸市中央区にあるラッセホールで「子どもとゲーム」をテーマとしたシンポジウム（市民公開講座）を開催いたしました。

当センターは、平成26年度より厚生労働省「子どもの心の診療ネットワーク事業」の兵庫県の拠点病院として活動を行っています。「子どもの心の診療ネットワーク事業」普及啓発の活動の一環で、平成27年度から毎年シンポジウムを開催、今年度はコロナ禍により4年ぶりの開催となりました。医療や教育といった多様な場で活躍されている外部講師3名をお迎えし、市民をはじめ学校関係者や医療関係者、行政関係者ら約250名の方が参加されました。

冒頭、座長で当センターの田中院長より、テーマの「子どもとゲーム」についてゲーム障害という概念ができ、実態はどのようなものなのか…はたして疾病なのだろうか…シンポジウムを通じて大人としてどう付き合えるのか、皆様と考えていきたいと開会の辞を述べました。



4名のシンポジストの講演内容より一部抜粋。

○大湫病院 児童精神科医 関正樹先生

ゲームの世界が子ども達の居場所になっています。一方的にゲームを取り上げると親子関係が対立してしまい、関係悪化により依存を深めてしまいます。家族が安心できる居場所になるよう、支援者は出来ない関わりを安易に助言せず、家族を支えていくことが大切になります。

○幸地クリニック 精神保健福祉士/臨床心理士/公認心理師 中元康雄先生

ゲームをやめさせるよりも、家族関係の修復と改善が不可欠であり、安全な場所を作ることによって依存する必要のない生活を実現していくことが改善につながります。

○神戸市立山田中学校 教諭 松尾薫先生

子どもたちの世界観を知り、寄り添うことが重要です。理解しようとしてくれる人に出会うことは子どもの財産になります。誰が「相談でき信頼できる大人」になれるのか考えること、また家庭・医療・学校の連携が重要だと感じています。

○当センター医師 和田慶太

当センターでの試み～インターネット依存・ゲーム障害リハビリテーションプログラムについて～説明しました。家族の孤立や傷つき体験にアプローチし、家族の子どもへの関わり方を修正する必要があります。常にその子の生きづらさはどこからきているのか、「始まりの物語」を意識することが重要だと考えています。



外来診療のご案内

※休診日：土・日曜日・祝祭日及び年末年始

- 初診外来は予約制です。初診をご希望の方は地域医療連携部にお電話ください。
- 初診予約受付時間：平日9：00～17：00
- 地域医療連携直通：078-940-5510

一般成人外来

令和6年3月

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診【初診】	小 田		小 田				小 田			
2診【初診】			担当医		担当医		担当医		担当医	
3診（再診）	置 塩		田 中		見 野		青 山		田 中	
4診（再診）	二 宮		植 田		曾 我		葛 山		酒 井	
5診（再診）	木 下		中 井		石 橋		置 塩		北 島	
6診（再診）	轟				新 谷		和 田		緒 方	
7診（再診）	茂 木		榎 本				真 殿		小 林あ	
8診（再診）	大 山		久保井	持 田	関 口	大 山			榎 木	
9診（再診）	吉 川		徳 永	小 林あ	真 殿		米 村		米 村	

※診察室1：もの忘れ外来初診の診察となります。

※診察室3：月曜日の午前はアルコール初診の診察となります。

※診察室8：火曜日の午前はアルコール初診の診察となります。

※診察室9：火曜日・水曜日・金曜日の午前はアルコール初診の診察、火曜日の午後は発達初診の診察となります。

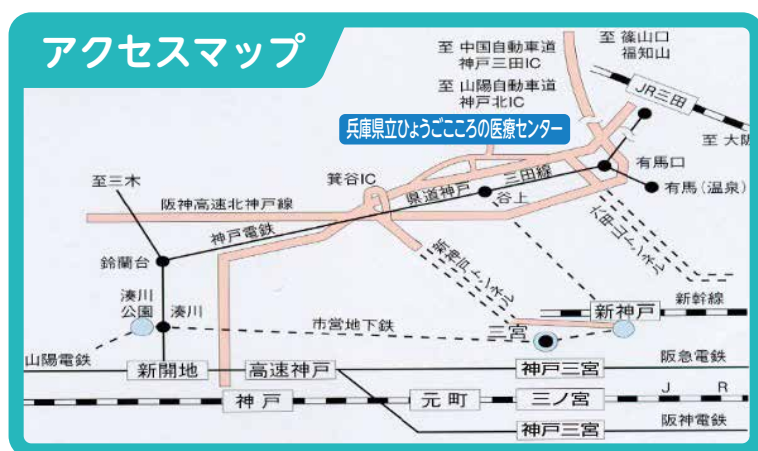
児童思春期精神科外来

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診			松 尾 (再診)			田 中 (再診)	渡 邊 (再診)		和 田 (初診)	和 田 (再診)
2診			神大派遣医 (初診)	神大派遣医 (再診)	尾 崎 (再診)				米 村 (初診)	
3診			酒 井 (初診)		吉 川 (初診)		緒 方 (初診)		金 田 (初診)	
4診			高 松 (初診)		茂 木 (初診)		小 林み (再診)		佐 藤 (初診)	



交通のご案内

※できるだけ公共交通機関をご利用ください。



【電車でおこしの方は】

- ▶ 阪急・阪神・ポートライナー・JR三宮駅より市営地下鉄にのりかえ、谷上駅下車、徒歩8分
- ▶ 神戸高速鉄道・新開地駅よりのりかえ、神戸電鉄・谷上駅下車、徒歩8分
- ※神戸電鉄・市営地下鉄線谷上駅とひょうごこころの医療センターの間で患者送迎バスを運行しています。



※送迎バスの時刻表は、QRコード↑でご確認ください。

【お車でおこしの方は】

- ▶ 病院敷地内に無料の外来駐車場がありますが、台数に限りがあります。

05病P2-015A4

『人としての尊厳を大切に、誰もが安心できる医療を提供します。』

